

# 意思決定支援分科会報告

ラポールみなみ 金子良子

今年のテーマは「私のしたい過ごし方」と題し、利用者の皆さんから話を伺い掘り下げていこうとしましたが、「こんなふうに過ごしたい」を言葉で語れる方はほとんどいませんでした。

①テラス・きらっとでは、系列法人五か所から動画を使い利用者の願い等を聞き取り、その願いを聞き職員がどのように対応されたかの発表がありました。

内容は、一人で買い物に行くのに躊躇してしまう方、お菓子の箱集めをされている方、待ち合わせ時間が不安な方、芸能人と結婚するためはどうしたら良いかと悩む方、帰りのバスを心配されている方に対し、職員がどのように対応されたかが発表されました。個に寄り添う支援がされていると感じました。

経験が少なく、選択肢が限られているため、今が一番良いと思っているのではないのか、少しでも選択肢が広がるように、日々の生活や行事などを通じ、色々な経験ができるようにしていくことが課題ではとまとめられました。

②ラポール川原からは、利用者さんの声から、私たち職員の役割を考える。充実した生活のための、余暇の過ごし方と題して発表。

動画を使い利用者へ質問

一、 どんな余暇の過ごし方をしているか

二、 困りごとや、支援者をお願いしたいこと

三、 今後「こうしたい」という希望

質問に対し、現状に我慢されている方もいれば、様々な希望のある方もいる。外出したい希望はあっても、サービスに繋がっていない

い方もいると言う結果でした。

個人差はあるものの、多くの利用者は様々な活動への参加や、人とのつながりを求めているように感じ、余暇の充実は利用者のモチベーションになり、それは支援者が一人の利用者の「生活」をきちんと見つめる事にもつながる。

利用者と接する時間が長い職員がニーズの把握やサービスの調整をする必要性は重要とまとめられました。

③グループセッションぱれっとでは、三つの過ごし方から生きがいについて考える事がテーマで利用者のAさんから、「私のしたい過ごし方」ではなく「したい過ごし方の希望をかなえるために三つの過ごし方」と題し、その過ごし方から生きがいを見出した例を本人から発表いただいた。内容は

一、 詰将棋について

二、 彼女と過ごす時間

三、 ぱれっとで働く事

一、では、小さな成功体験がストレス対処行動になること

二、では、出会えてから六年になる彼女とお付き合いが楽しくて生きがいであることを語られました。

三、では、三十年の入院生活の後、通所するようになり仕事も何とかやれそうと自信を付けていき、毎日仕事をしていて障害を抱えてもできることに幸せを感じていると話されました。

三つの過ごし方で生きがいを見つけ、苦しみ、悲しみ、辛いことを乗り越えてきた。今は働くことが楽しい、恩返しをしたいと思っているとの事です。

利用者さんの生きがいを見つける事、そして、それをどう支えていくのが課題でした。

④次は本人部会委員であり、障害当事者でもある杉山様よりお話しいただきました。

一、連合会の事業「ふれレク」等に参加して感じた事として、職員が仕切って利用者は見ているだけで、利用者のためのイベントなどでメンバーが運営しても良いのではないかと。

二、メンバーさんが交流できる場ができないか、あった。

三、作業所：本人部会は自分が提案した。第一回は激論を交わせるパワフルな機会があったのに、今はメンバー同士が話をする機会がないのは残念なところ。

四、作業所の課題：家族・本人が苦しくなった時、どうしたら良いか情報を知らない。例えば静岡市なら福祉のしおりを利用者に配ってないし、担当者しか知らない。

五、ホームヘルプの時間も足りない。社会資源のホームヘルプをもっと使えるように事業所も連合会も言うていく。

六、地域との関り：作業所の魅力は地域にあること。学生と地域住民が気楽に出入りしてもらおう機会を作っていくことで事業所を超えた付き合いができるようになるのでは。

七、語り合う時間を増やしていく：そのようにしていくことでテーマである「私のしたい過ごし方」が見えてくる。

八、利用者の時、職員に打ち明けられない、話しかけづらい時があった。利用者は我慢しているし、遠慮している。もっともっと、人間対人間、心と心の付き合いをして職員とメンバーが語り合う時間を増やしていくと良いと話された。

⑤ラポールみなみではQOLの向上。「親亡き後も安心・のびのび生活の実現をめざして」をサブテーマにし、キーワードとして生活環境の鍵は「ひと」「コミュニケーション」「信頼関係」

生き生きとした暮らしを実現するために必要なことは何かを目的に話を進めました。

一、動画を使い利用者会議の場で、バスの中、買い物中、レストランで食事等をする中で困ったことおかしと感じたことを聞きました。

二、親等へのアンケート実施

過去で困った経験、現在困っている事、これから希望する過ごし方等の質問

一、については、月一回開かれる利用者会議でセルフレジでのトラブル・公共の場での注意・叱責されたこと・レジでのきつい口調や説明不足等の話が出ましたが、特にないが多数ありました。

二、については、親等のアンケートから

困っている事：コミュニケーション（いやが伝えられない等）

将来の不安（親として）：GHで本人らしく生きていけるか等結果として、生活を安心して楽しむ、生き生きと暮らす等を実現するには「人」である。多くの親に共通する願いかつ不安は「（親以外で）自分をわかってくれる、この人は信頼できる」と本人が思える人ができるかということでした。

課題として「わかってくれる」「信頼できる」と当事者から思ってもらえる人になること：

そのために

一、コミュニケーション：心（感情）の交感、共有できるやり取り（特に非言語）

二、人権・主体性の尊重：個として尊重されているか、自己決定権があるか、共に暮らし働く仲間になるでした。

本人部会として、利用者さんが発言したり、活躍できる場を作ったりしていきたいと考えます。